

『適切な言葉で、人と人を繋ぐこと』

地域包括支援センター 社会福祉士・精神保健福祉士 長谷川 尚見

竹内先生のご経験から、竹内先生が学び感じている貴重なお話をお聞かせいただきまして、心より感謝申し上げます。

自分は、社会福祉士・精神保健福祉士として、様々な方々と関わらせていただく中で、言葉の持つ『重さ』を実感する機会を日頃よりいただいております。業務における出会いの中では、自分を振り返り気づきをいただく事も少なからずございまして、人生そのものがいつも学びであり、人と出逢い、そこで新しい気づきをいただいている事に幸福感を得る事もございます。

自分に、言葉の『重さ』を最初に伝えてくれたのは、父の母である明治生まれの祖母でした。祖母の言葉が正確で丁寧だったわけではありませんでしたが、「嘘は言ってはいけない」と幼い自分に伝えてくれた事は、自分にとってかなり広く深い意味で、その後自分の人生に与えた影響は大きかったと感じています。

人と人を繋ぐ「言葉」を丁寧に使い、それぞれがよりその人らしく過ごす事を支援し働きかけながら、温かく人と人を繋いでいく事を自分は目指していきたくと思っています。人との関わりでは、場合により自分の知識不足もございまして、相手に意図が伝わらない言葉を使う事がございます。場面により間違いである事に気付いたら、可能な限り訂正しますが、必要な支援を必要なタイミングで届けていく為にも、より広く相手に伝わる「言葉」の必要性を日頃より感じています。

「障害」は社会によって生み出されるものだ自分も感じますが、よりたくさんの人が豊かに過ごす為にも、人としての自然な生活を、より自然に一人一人が認識して行く事を目指し、自分に可能な役割で実践を行う為、自分に必要な学びを今後も続けていきたいと思っております。

改めまして、この度は、理解しやすい適切な「言葉」でご説明いただきまして、有難うございました。自分も、竹内先生のような適切な説明に少しでも近付けるように、地域に必要な情報をより適切な言葉で、少しでも広く明確に発信する事を意識し業務を続けていきたいと思っております。

今後とも機会がございましたら、ご指導の程、何卒宜しくお願い致します。